

1 児童の現状分析

小学校生活に慣れ、意欲的に学校生活を送っている児童が多い。学習中の集中力や理解度は個人差が大きい。個別に指導に当たり一つ一つ確認しながら取り組むと、できることが多い。基礎・基本の定着が不十分な児童やコミュニケーションがうまくとれない児童がいるので、児童に合った手だてをとることが必要になってくる。

2 各教科等における授業改善の視点

授業改善の視点	
国語	○話を聞くときの約束「姿勢を正す、発言者を見る、最後まで聞く。」など具体的な指示を出すことで、相手意識を高めさせる。友達と話すだけでなく、ホワイトボードやタブレット型パソコンなど、様々な対話的活動を取り入れる。計画的・段階的に「書くこと」の指導を行い、文章表現に慣れさせる。
算数	○計算の定着に個人差が見られるので、タブレット型パソコンを使った計算練習アプリや計算カードを授業で繰り返し行い、計算の定着を図る。毎日の宿題でも、学習したことを復習する機会を設け、学習内容の定着を目指す。具体物や操作活動を多く取り入れて、実感を伴わせるような指導を重ねていく。
生活	○五感を使った振り返りの視点を提示し、気付きの質を高める。その上で、ノートやタブレット型パソコンなどのツールを用い、様々な学習形態で授業に取り組めるようにする。具体的な体験を多く積みせたり、児童の願いを取り入れた活動を繰り返し行わせたりするなど、児童の思いを大切にしたい指導を充実させる。
音楽	○鍵盤ハーモニカの基礎的な技能(持ち方・タンギング・息の使い方・指使い)について、繰り返しやスモールステップでの練習を通して身に付けさせる。よりよく演奏できるようにするために、ワークシートなどを活用して自分の演奏を振り返ることができるようにする。
図画工作	○色の使い方や飾り方、道具の使い方などの基礎的な技能を身に付けさせ、児童の表現方法の幅を広げられるようにする。タブレット型パソコンを用いて写真を撮り、「スクールタクト」で共有して、友達の作品を見たり、感想を伝え合ったりすることができるようにする。
体育	○安全に気を付けて運動できるように、安全な場の設定や服装を徹底する。運動量を確保するために、分かりやすくスムーズな説明を心掛け、あらかじめ場を設定しておく等の工夫を行う。適宜、タブレット型パソコンで動画を撮影するなどして、自分や友達の良い動きが分かるようにする。
道徳	○教材の世界にスムーズに入り込めるよう、紙芝居や黒板シアター等を用いて、教材提示を工夫する。教材と自分自身の生活とを結び付けて考えられるように、教材の精選や発問の吟味を行う。役割演技等を取り入れ、教材の登場人物に自我関与できるような工夫を重ねていく。